

伊佐市立中学校再編成市民説明会（羽月小学校）	
日 時	平成23年12月21日（水） 午後7時00分～午後8時30分まで
場 所	羽月地区公民館
出席者	教育長・教委総務課長・学校教育課長・事務局2人 参加者 13人
<p>○教育長あいさつ</p> <p>この再編成においても私たちが子どもたちにどういう力を付けるのか、ということが一番基本になると思います。今の子供たちが大きくなったときに本当に世の中を堂々と生き抜いていくことができるようにするのが非常に大事だと思います。生きる力をつける、たくましい力をつけるということがこの再編成の底辺にもあります。私はこちらに来る前のそのまた前の学校はアメリカの学校でした。アメリカのデトロイトにある1200人の学校でしたけれども、そこで感じたのは、子どもというのは本当にたくましいものだということをすごく感じました。日本には味わえない子供たちのたくましさを感じました。それは、私の学校は、アメリカの日本人学校で土曜日だけの学校です。そういうものがアメリカ全体で50校ぐらいあります。子どもたちは月曜日から金曜日までは現地のアメリカ人が通う学校に行きます。日本人の子どもたちはアメリカにきて3～4日後にはアメリカの学校にボンと入れられます。もちろん英語ばかりです。日本語は全く通じません。子どもは全く何もわからない中、幼稚園も小学生も中学生も高校生もその中にボンと入れられます。最初はトイレがどこにあるかもわかりません。先生がどんな先生なのかもわからない。隣に座っている人がどういう人なのかもわからない。そういう生活を一年二年と続けます。学校の勉強がわかるようになるまでに三年はかかります。私の経験では英語ができるようになるまでには三年かかると思います。三年間、全く英語の中に友達も誰もいない。先生が声をかけてくれるんだけど、何を言ってるかわからない。もちろん勉強もわからない。そういう中で生活をしますけれども、1200人の子どもたち誰一人としてドロップアウトしません。三年たつと全員がアメリカ人と対等にやってくれるぐらいの力を持っていきます。これは日本の子どもです。そしてその子どもたちは日本に帰って来ます。その子どもたちのたくましさ強さを見るにつけ、子どもというのは環境によって育て方によってこんなにたくましくなるのかと・・・でも、その裏には子どもは安心して居るのです。僕には私にはお父さんとお母さんがいてしっかりと見ていてくれるという安心感があるわけです。そのように子どもは育てればたくましく育つものです。私も子どもを連れていきました。ちょうど小学5年生でしたが、アメリカのその学校にボンと投げ込みました。そのように子どもたちはたくましさを持っていますが、私たちが子どもたちにこれからの将来、TPP問題や企業の海外進出などという中で子どもたちは生きていかなければなりません。そういう中で子どもたちにどういう力をつけてあげなければならないか、ということを考えながら教育活動をしています。また、この再編成においても今までの形の中で大事に育てることも大切な</p>	

ことですが、本当にこの羽月の子どもたちは鍛えられてたくましい子供たちであると思っております。この子どもたちが大口の子どもたちとも山野の子どもたちとも対等に、またはリードしてやっていく、そういう子どもたちではないかと思っております。今、羽月小学校は新しい校長先生のもとのすごく変わってきていると思っております。たくましくすばらしい学校になってきておりますけれども、その子どもたちがまた新しい中学校三年生になったときに新しいところでたくましく他の生徒もリードしながらやっていけるようになっていきたいと強く思っております。今日、それぞれ教育委員会の担当が説明を行いますけれども、基本にあるのはこの子どもたちが大きくなったときに生き抜く力を、家族を持ち養っていく力を身につけるんだという気持ちでこの会が進められればと思っております。

質 疑

- 19日に会の通知をもらって今日、資料を見てすぐに返事はできない。みんなと話し合っ返事したい。
- ・14日に質問用紙の提出を受けて、先の会で次回開催は年内にということでしたので26日とかスケジュール調整しましたが、うまく調整ができなくて本日の開催となったことはご理解いただきたい。
- この前の会で議論になった回答はないのでしょうか。会長に渡すとかいう・・・
 - ・この前の会では皆さんから出された質問に教育委員会が答えるということだったと思っております。（PTA会員の中からも「それは聞いてない」という声があり了解された）
 - ・これからのスケジュールになるんですが、3月に大口中・南中・山野中をひとつにするという議案を出します。議会が通ると、今説明した準備委員会での細部のことを決めていくこととなります。3月までは時間がありますので、できれば文章化して教育委員会へ提出いただければそれについて回答するということができますし、会を開いてということであれば教育委員会でも対応したいと考えます。
- 結局、不安というのはですね、合併について反対ではないんです。合併決まりました、それからものが決まりますだと何も言えないじゃないですか。そこが問題なんです。
- 今、△△君が言ったこととは少し違うかもしれませんが、再編が議決されて4月になったら公務員には転勤があるが、今ここにいる人が抜けたりして2年後には誰もいなくなったりして引き継ぎがうまくいかなかった場合、それは聞いていない知らないでは親としては納得できない。我々、親は子どもについていけないといけない訳で市も担当は一緒にやってもらいたい。また、協議会のときのように途中で委員が変わるようでは、また一からのスタートとなるため最初から最後まで行けるような形にしてもらいたい。
- 来年、計画を立てて実施となるが、実施したらその結果はどうだったのかを見ないといけない。子どものことを考えるんだしたら、親も会が10回あろうが100回あろうが出てきて語り合うこ

とが結果的には良い方へ向うと思う。

- ・再編は市の重要な施策となっております。途中で方向転換するとかはありません。準備委員会の構成ですが、指摘のとおり協議会では途中から入っていただいた委員の方もいらっしゃいます。その反省に立って PTA の委員の方については市 P 連会長にお願いして、各 PTA 会長がそのまま入るのではなくて、27 年再編時に当事者となる保護者の中から決めてもらうなどの対応をお願いしたいと考えています。準備委員会での協議の内容が各 PTA 会員に行き渡るよう組織づくりを市 P 連を中心に行ってもらいたい。（教育委員会は強制できない）

○準備委員会の期間は 1 年間ということですが 27 年度までの間、検証する仕組みづくりを考えていただきたい。

- ・ 1 年間で決めてしまわないと 25 年度から実施しなければならないもの、交流学习とかどんな教材を使うとか、3 中学校を統一していかなければ 27 年度に間に合わないということになるので、準備委員会で決まったことは本来なら教育委員会の教育委員の方でチェックをしなければならないと思います。今回は伊佐市としては初めての経験でもありますので PTA の方も入ってもらった組織も考えていかなければならないと思っていますので決まったらお知らせします。

○今のそれは何とかお願いします。

- ・先ほど説明しました PTA 再編連絡会の中でそういう組織を立ち上げてもらうというのはどうでしょうか。

○来年は当番制で南中校区が市 P 連の会長をすることになっています。

- ・準備委員会の任期は 1 年ですけれども、その後も名前を変えてでもそういう（見届けをする）組織を立ち上げてもらえばよいと思います。

○今、保護者が不安に思っていることの一つに噂だけが先行してある中学校が荒れているとか実際はどうなのかと思っている。その中に代議員の方が入られて実はこういうことなんだと報告できる体制が欲しい。

- ・チェックする機関は設けても良いと思います。大口中の噂がありますが、南中でも 9 年ほど前に問題がありましたが、先生や保護者の一生懸命の取り組みで問題を解消してきた経緯がある。どこでも抱えている問題だと思います。今の心配事の一つではありますが、再編までにはこの問題は解決していきたいと思います。

○計画があつて単に実施させたということではなく、実施したことについて反省とか出し合つて教育委員会とか親とかが話し合つて補足していく方が良い。

- ・学校間では交流学习とか計画しますが、不足する分はできれば土曜日日曜日に保護者も合同で行うことで補っていききたい。行政だけでできるものは年のうちそんなにたくさんはない。一緒になって子どもたちだけでなく親も顔見知りになるという感じで作っていかれたらと思う。

- 自分も含めて親が心配しすぎているのかもしれない。教育長の言うように子どもの方がたくましいのかもしれない。
- ・PTA 連絡会で意見調整を行いながら新しい PTA へ引き継いでいく。3つの中学校を併せてよりよい学校をつくるために教育委員会も頑張っていきます。
- 制服が新しくなるとしたらタイムリミットはいつになるのか。採寸などをして着るのが4月ということですね。ということは、いつまでに決めればいいのかということです。
- 最短の場合は、12月までに決めなければならない訳ですね、実質1年ないですね。すべてを11月か12月に決めないといけない訳でしょう。
- ・全部ではなく決めなければならない事項は早めにとということです。
- そんなに短期間で大丈夫なんですか。
- ・今の質問は、新制服を25年度から現在の中学校で着用する場合の話ですね。
- そうです。
- ・そうなった場合は早く決めなければならないということです。
- ちなみにたたき台は出来ているのですか。それは、見せてもらえないのか。
- ・準備委員会で諮ってからお見せすることになります。
- その前には見せてもらえないんですか。あるけど見せられない訳ですか。それを見せてもらえるととても安心するんですけど。
- （それは違う。言っている方向性が違う。との声が PTA 会員から出された。たたき台を出しても準備委員会で180度変わるかもしれない。）
- ・それを解ってもらうために PTA 連絡会なるものを作ってもらって情報提供をしたいと考えているんです。
- 学校教育課長にお伺いします。この再編によって学力向上を図るためにどのような取り組みをされるのか、お考えがあれば教えてください。
- ・4中学校で共通の実力テストみたいな試験ができないかを考えています。その中で自分のいる位置を確認し、切磋琢磨で実力を上げていく。何とんでも先生方の指導力や情熱が一番大事です。それを深めていこう。そのために指導主事の先生を学校現場に送りたいと考えます。
- 昔は県全体でテストで何番かとわかりましたが、今はなかなかわからない。私立だと実力模試などで全国何番とわかるけど、公立は難しいのか。
- ・公開模試とかを土日で開催してやっている。
- それを学校ではできないのか。文科省がそういう方針を出しているのは解るが保護者としてそういうものがあれば子供の進む方向が見えると思うが。
- ・それに変わるものとして鹿児島県は基礎基本定着度調査を中学校1年・2年生で実施している。小学校では5年生でしている。全国では中学校3年生の4月に基礎を測るA問題と応用力を測るB問題を実施している。
- 新しく出来る中学校ではそういうものを積極的に取り組んでいただく、南中学校は英検や漢検をしているので、他の学校もしているのか。
- ・学校によって違う。

- ・英検・漢検については旧大口市の時に、そういうものを受ける環境づくりのために3年間補助金を出して取り組んだことはある。
- 部活動について、平成27年に再編成となると25年度26年度で部員が不足する部活は合同で出ることになるのか。また、単独で組めるとなると単独で出ることになるのか。
- ・中体連については単独で出れるところは出ることになるが、今と一緒に部員が不足している部活動はどこかの学校との合同チームとして出ることになる。それらのことについても準備委員会の中での部活動のところで顧問の先生方を入れて話し合いで決めていくことになる。
- ・27年の部活動については、3年生が26年の6月に活動が終わるのでその時点から3中学校の部活動の方針を決めていくことになると思う。
- 先生の人事について教育長から要望は出せるんですか。
- ・人事異動は県の教育委員会が全体を見ながらするが、学校長がどうしてもこの先生を残していただきたいということがあれば学校長とも相談して、教育長として要望は可能な限り出していく。新しい学校にも南中の先生方が一人もいないということではなく、少しでも残していくようにしたい。
- 南中の要望としてこの先生を新しい中学校に残してくると要望として出すのは可能ですか。
- ・要望として出されるのは結構です。ただ、それがそのまま通るかどうかというのは解りません。

以上